

自走式草刈り機による電気柵下の草刈り 作業時間の短縮効果(川俣町)

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付実証
研究課題名 電気柵の省力管理の実証(川俣町)
担当者名 小野司

I 実証技術の解説

1 要旨

電気柵による鳥獣被害対策では、飼料用作物生産等の大面積を管理する場合、漏電防止のための草刈り作業に多くの時間が必要となる。そこで、作業時間の短縮を目的に自走式草刈り機と背負い式刈り払い機を比較し、その効果と問題点の抽出を実施した。

- (1) 比較調査は、作業員2名による電気柵下の草刈りに要した時間の比較で行った。背負い式刈り払い機は、電気柵を設置したまま草刈り作業を行ったが、自走式草刈り機は、電気柵の簡易支柱を外し、草刈り後に再設置した(図1、図2)。平坦地における自走式草刈り機による作業は、背負い式刈り払い機よりも作業時間が短縮した(図3)。
- (2) 自走式草刈り機は、打ち込み支柱周辺や凹凸の多い場所では雑草の刈り残しが生じやすい(図4)。

2 期待される効果

- (1) 電気柵下の草刈り作業の参考資料となる。

3 活用上の留意点

- (1) 自走式草刈り機での作業の場合、電気柵下を予め平坦に整えておく必要がある。
- (2) 電気柵の再設置後に通電線のたるみや不適切な高さでの設置、雑草の刈り残しによる漏電等が発生することがあるため、作業後には点検と改善を励行する。
- (3) 作業後は電圧測定器を用いて適正電圧であることを確認することが望ましい。

II 具体的データ等



図1 自走式草刈り機での作業



図2 自走式草刈り機での作業後の状況
(注) 作業後、刈り払い幅の中央付近に電気柵を戻した。

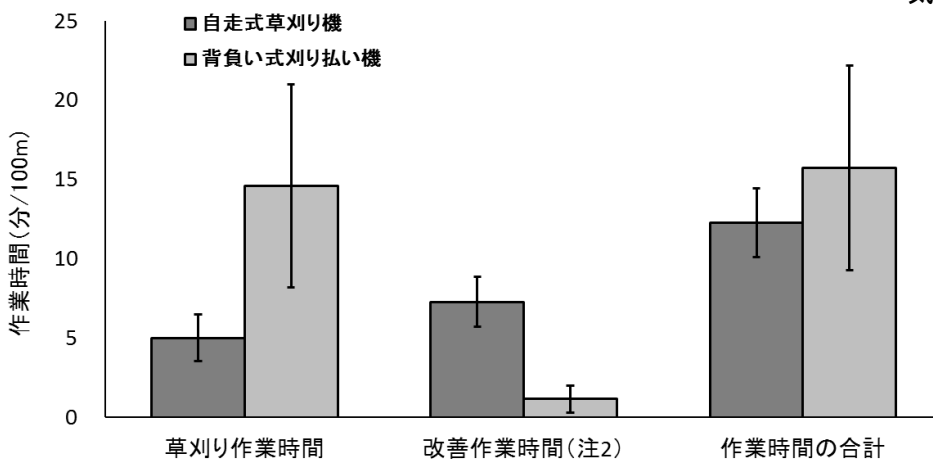


図3 自走式草刈り機と背負い式刈り払い機による作業時間(分/100m)の比較
(注1) 作業人員は2名とした。

(注2) 草刈り作業後に通電線のたるみや不適切な高さでの設置、雑草の刈り残しによる漏電等を改善した。



図4 支柱付近の刈り残し状況

III その他

1 執筆者

小野司

2 実施期間

平成30年度

3 主な参考文献・資料

なし